No.（　41　）令和３年度　地域と共働した博物館創造活動支援事業成果報告書

<table>
<tr><td>事業名称</td><td colspan="4">京都の近代化遺産－あらたな京都を発見プロジェクト</td></tr>
<tr><td>実行委員会</td><td colspan="4">「京都の近代化遺産」発信プロジェクト実行委員会</td></tr>
<tr><td rowspan="4">中 核 館</td><td colspan="4">京都工芸繊維大学美術工芸資料館</td></tr>
<tr><td>住所</td><td colspan="3">〒606-8585</td></tr>
<tr><td>TEL</td><td>075-724-7924</td><td>FAX</td><td>075-724-7920</td></tr>
<tr><td>ホームページ</td><td colspan="3">https://www.museum.kit.ac.jp/</td></tr>
<tr><td>構成団体</td><td colspan="4">京都女子大学、京都美術工芸大学、京都市学校歴史博物館</td></tr>
<tr><td>事業開始時点の課題分析</td><td colspan="4">歴史都市としての京都はこれまでさまざまなかたちで紹介されているが、そのときに想定されている「歴史」とは、江戸時代以前の前近代であることが多い。そのため、明治時代から戦前までの近代化する京都で考案され、形づくられ、消費されたモノ―京都の近代化遺産－については見落とされがちである。しかし、実際にはこれら京都の近代化遺産は、現代の京都の基盤となっているものが多く、さらに、京都文化を理解するためには欠かすことのできない重要な資料類であり、同時に、日本の近代化を考えるためにも貴重である。
このような近代化遺産については、これまで十分な光が当たっていないために、現代との密接なかかわりが認識されていないだけでなく、技術が忘れられ資料の所在が不明になり、また、世代交代、土地開発などの社会的変化を受けて失われつつあるものもある。近代化遺産が置かれているこのような状況を地域の人びとと共有し、その価値を認識し、保存と活用についての意識を高めてゆくことは喫緊の課題である。</td></tr>
<tr><td>事業目的</td><td colspan="4">この事業の目的は、京都というまちのもつ文化遺産のなかでも、これまであまり注目をされていなかった近代化遺産に焦点をあてて、その価値を再確認する機会を地域に提供して、その正しい評価と保存意識の喚起をすることである。
本事業では、京都の近代化を美術・デザイン・産業に関する教育・研究という側面から支えてきた京都工芸繊維大学のミュージアムという中核館の立場から地域の近代化遺産について発信することにより、近代化の過程で蓄積されてきた「モノ」、あるいはそこで展開されてきた教育・研究という「コト」を具体的に示すことを目指す。さらに、関連諸機関からも資料を借用して展示を充実させるとともに、それら諸機関が果たしてきた役割についての検証もおこなう。また、リレー講座を実施することにより、一般市民へのより直接的な発信をすることも目的とする。</td></tr>
<tr><td>事業概要</td><td colspan="4">本事業は以下の二つから構成される。
① 京都工芸繊維大学美術工芸資料館を会場にして 2021 年秋に実施する展覧会「美術の教育／教育の美術」の開催とそのカタログを作成する。展示構成は、美術工芸・芸能文化・教育・産業となり、それぞれの近代化の様相を中核館および協力機関の収蔵資料を用いて示したい。京都工芸繊維大学美術工芸資料館では、京都の美術工芸の近代化を進めるための教育現場で使用されていた教材およびそれにもとづいた教育成果資料を保存している。また、学内にある附属図書館には、前身校から蓄積されている蚕業関連の教育、実験、研究資料が所蔵されている。それら資料類と、構成団体の所蔵する資料類、島津製作所、川島セルコン、千總、芸艸堂、便利堂など、京都の文化・産業面での近代化を進めた諸企業が所蔵する関係資料、京都府立</td></tr>
</table>

	京都学・歴彩館、京都市学校歴史博物館などが所蔵する近代京都の教育（美術工芸教育・女子教育）・文化関係資料を融合させることにより、それぞれの機関の果たした役割を確認するとともに、その周辺で忘れ去られている「モノ」「コト」の掘り起こしをおこない、京都の近代化遺産の実態、現代とのつながりなどの解明をおこなう。 ② 展覧会に先行してリレー講座「京都の近代化遺産－あらたな京都の発見－」（オンライン）を開催する。この講座は、一般市民向けに、展覧会の内容に即して京都の近代化遺産の実態とその価値を伝えるための事業で、展覧会と相まって京都の近代化遺産の重要性を認識してもらう契機となる。ジャンルは、美術、工芸（陶磁器・漆芸）、歴史、産業を予定している。
実施項目 ・ 実施体系	１.京都の近代化遺産－あらたな京都を発見プロジェクト (1)展覧会「美術の教育／教育の美術」の開催 ①事業の検討会議　（検討会議１） ②資料調査　（資料調査） ③カタログの作成　（カタログ） ④展覧会の開催　（展覧会） ⑤シンポジウムの開催　（シンポジウム） (2)リレー講座「京都の近代化遺産－あらたな京都の発見－」の開講 ①講座の検討会議　（検討会議２） ②リレー講座の実施　（講座）
実施後の 成果・効果等	本事業の目的は、これまで展覧会等で取りあげられることの少なかった、近代の日常生活に密接にかかわっている「美術」を発掘し、その文化財的価値と魅力を発信することにより地域文化の発展に資することである。実施後のアンケートの回答からも、今回の展覧会（自主企画）、カタログ、シンポジウム、リレー講座を通して、近代の教育関係資料や近代化遺産という京都の文化財のあらたな側面についての理解を深め関心を高めることができたことが確認できる。オンラインでおこなったリレー講座、シンポジウムでは、設定した参加人数に早い段階で達するなど、本事業で設定した問題意識についての関心が高いこともわかった。 アンケートでは、「東京に勢いがなくなり、世界に遅れを取り始めた昨今だからこそ、今、明治維新以後の取り残された感を強くもった京都が世界を相手にどう渡り歩いたかを見直して、分かったことを流布することは、東京に限らず、魅力ある都市つくりにとても大切なことだと思いました」「技術は産業だけでなく、美を呼び起こし、それが後世へ誇りと伝統に繋がっていくものなのだ、とあらためて感じました」などという声があった。これらの回答により、京都の近代化とそれにともなういわゆる近代化遺産の文化財的価値の認識を喚起することができたことが成果として確認できた。さらに、各イベントの参加者に、身近な近代化遺産を保護し、後世に伝えるという意識を生んだという効果もまたアンケートの回答から確認できる。 京都の文化財というと古社寺がまず浮かぶが、これまであまり注目されることがなかった近代化遺産を保存し、後世に伝えることの重要性についての認識を参加者に植え付けることができたことは本事業の効果であり、さらに、このような事業の実施は、おなじ近代に成立した大学の重要な使命であることをあらためて認識することができた。

【事業実績】

事業①　展覧会「美術の教育／教育の美術」（自主開催）

開催日：2021 年 9 月 27 日～11 月 6 日

会場：京都工芸繊維大学美術工芸資料館

入場者数：672 名

内容：これまで「美術」として展示公開されることのなかった教育現場での作品・資料に着目をし、近代京都の学校教育のなかで使われ、製作された資料類を収蔵する学校歴史博物館、京都における女子教育の先駆けとなった前身校の資料を保管する京都女子大学の協力を得て、京都工芸繊維大学所蔵資料と合わせて展示をおこなった。

成果：コロナ禍にもかかわらず 672 名の入場者があり、とくにリレー講座を受講したうえで鑑賞した入館者も多く、両事業が相乗効果となり、神社仏閣や名所だけではない近代京都の隠れた文化財についての認識を広めることができた。

事業①　シンポジウム「京都の近代化遺産－近代化を支えた人びと」

開催日：2021 年 10 月 3 日

形式：online

内容： 近代京都の美術工芸の発展に大きな役割を果たした千總（弘治元年創業）、島津製作所（明治 8 年）創業）、便利堂（明治 20 年創業）、芸艸堂（明治 24 年創業）に焦点をあてて、その活動がどのようなもので、どのような先進的な意義があったのか、さらに、そこでなにが生み出されて、なにが忘れられていったかを明らかにする。

開会挨拶・趣旨説明・展覧会紹介　並木誠士（京都工芸繊維大学美術工芸資料館・館長）

パネル発表「明治期の染織品―博覧会への出品と百貨店との商売を中心に」
小田桃子氏（千總文化研究所・研究員）

パネル発表「明治期における高等教育機関への教材提供と教授らとの結びつき」
川勝美早子氏（島津製作所 創業記念資料館・学芸員）

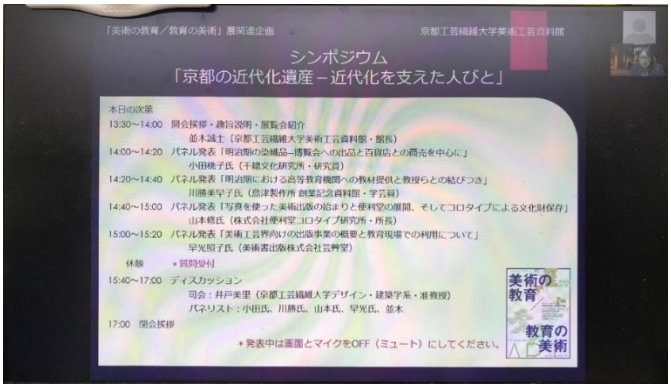
パネル発表「写真を使った美術出版の始まりと便利堂の展開、そしてコロタイプによる文化財保存」
山本修氏（株式会社便利堂コロタイプ研究所・所長）

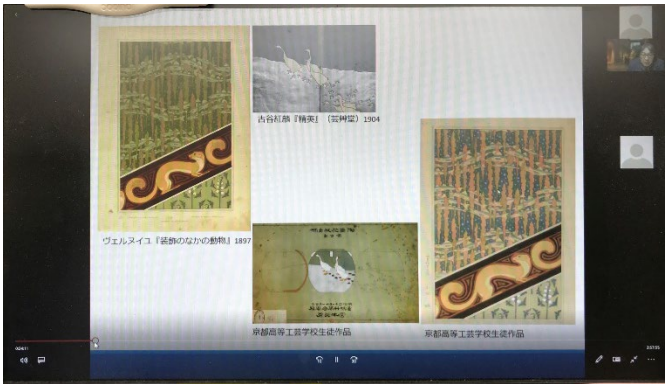
パネル発表「美術工芸界向けの出版事業の概要と教育現場での利用について」
早光照子氏（美術書出版株式会社芸艸堂）

ディスカッション　司会：井戸美里（京都工芸繊維大学デザイン・建築学系・准教授）
パネリスト：小田氏、川勝氏、山本氏、早光氏、並木

参加者の声：

オンラインの受講については、「自宅から受講できて便利だった」、「普段から慣れているので問題なく受講できた」という声が圧倒的多数を占めた。また、「技術は産業だけでなく、美を呼び起こし、それが後世へ誇りと伝統に繋がっていくものなのだ、とあらためて感じた」「産業の資料に深く関わられている方々のご発表から、近代化をめぐる技術と京都というローカルがダイナミックに結びついたさまを感じることができた」との感想が得られた。





事業② リレー講座「京都の近代化遺産－あらたな京都の発見－」

開催日：2021 年 8 月 28 日（講座①②）、9 月 4 日（講座③④）、9 月 11 日 （講座⑤⑥）

形式：online

内容：一般市民向けに、展覧会の内容に即して京都の近代化遺産の実態とその価値を伝え、展覧会と相まって京都の近代化遺産の重要性を認識してもらう契機とする。

講座① 「美術の教育／教育の美術—展覧会に寄せて」 講師：並木誠士

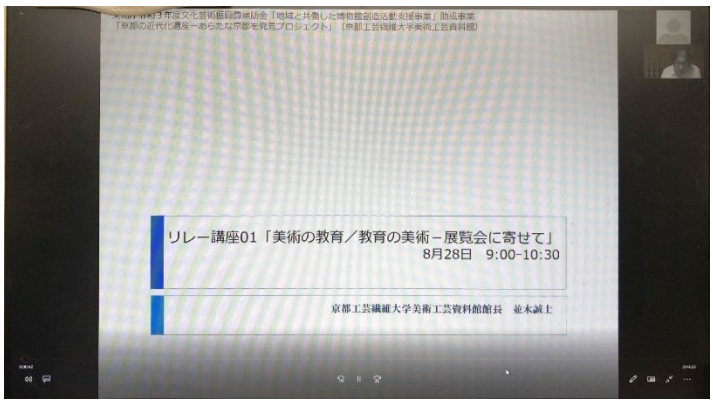
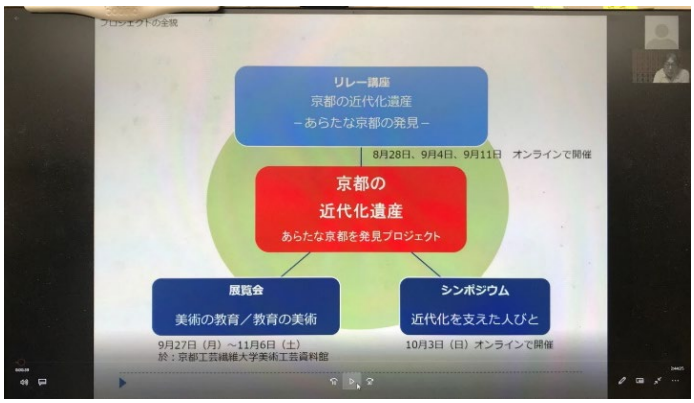
講座② 「京都の近代—美術・工芸と教育の歩みを重ねて」講師：高木博志氏（京都大学人文科学研究所・教授）

講座③ 近代京都の陶芸① 講師：木立雅朗氏（立命館大学文学部・教授）

講座④ 近代京都の陶芸② 講師：前﨑信也氏（京都女子大学家政学部・准教授）

講座⑤ 近代京都の漆芸 講師：永島明子氏（京都国立博物館学芸部教育室・室長）

講座⑥ 近代京都の絵画 講師：田島達也氏（京都市立芸術大学美術学部・教授）

受講生の声：

オンラインの受講については、「自宅から受講できて便利だった」、「普段から慣れているので問題なく受講できた」という声が圧倒的多数を占めた。また、「新しい時代にどうやって都市としての存在（特質）を示していくか模索していた、という印象を持った。美術工芸界も「京都」を意識していた面があったように感じられた」、「京都はどう近代化を迎えたのかということを、最近色々なところから発信されており、その中で、体系だって聞けたのがよかった。」などの感想を得られた。